

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	区学力調査の結果の分析 全体では目標値を上回ったが、全国正答率は下回っている。技能別に見ると、「漢字の読み、書きの力」が目標値より10ポイント以上下回っており大きな課題である。日常の授業でも小学校中学年で学習した漢字を平仮名で表記することがある。 「文章を読む力」「作文」は目標値を上回っており、全体としてはよいが、苦手意識をもちやすく、個人差がみられる。	具体的な授業改善案（手だて） <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習態度、習慣の定着を図る。（ノート作成、ワークシート記入の工夫） 短い作文を書く機会を増やし、発想を豊かにするために互いに読み合ったり、アドバイスをしたりする場面を作る。簡単に漢字を調べるためにタブレットを活用する。 小説では登場人物の言動から心情を推測させる。論理的文章では、構成を明らかにして、筆者の最終的な意見を読み取り、まとめさせる。ワーク等の問題演習をする時間をとり、的確に解答する指導を行う。 生徒が言語活動に意欲をもって取り組むことができるよう、生徒の興味・関心をひくことができるようなデジタル教材、視覚的補助資料等を活用していく。
	授業における課題 <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習態度、習慣の定着が課題である。 作文を書くときに、漢字を調べるのに時間がかかる。また、簡単な漢字を平仮名で書くことがある。さらに、書く内容がなかなかまとめられないこともある。 文章を丁寧に読み進める力の育成が課題である。小説では登場人物の気持ち、論理的文章では筆者の意見を読み取ることが難しいことがある。 	
2年	区学力調査の結果の分析 全体では目標値を上回り、全国正答率も上回っている。技能別に見ると、情報の扱い方に関する事項や、書くことの正答率が高い。これは情報に関する単元の中で、情報の関係性を整理したり、単元のまとめとして自分の考えを文章にまとめたりする活動の成果だと考える。一方で、漢字の書き取りが目標値を大きく下回っており、今後の課題として挙げられる。日頃行っている漢字の小テストだけではなく、その直しを行わせ、反復練習の習慣を付けさせる必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習態度の定着を図り、学習意欲を育てていく。（ノート作成、ワークシートの記入の工夫）また、引き続き毎週漢字の小テストを行い、家庭での学習習慣の定着を目指す。 生徒が言語活動に意欲をもって取り組むことができるよう、生徒の興味・関心をひくことができるようなデジタル教材、視覚的補助資料等を活用していく。 生徒の書く力を育成するため、引き続き単元の中で自分の考えをまとめる活動を取り入れ、文章の内容や文章構成などについて指導を行っていく。 生徒の読解力を育成するため、小説では登場人物の言動から心情を推測させ、論理的文章では、構成を明らかにして、筆者の最終的な意見を読み取り、まとめさせる活動を行っていく。
	授業における課題 <ul style="list-style-type: none"> 発展的な内容も意欲的に取り組む一方で、基礎的な内容でつまづいてしまうこともあり、学力に個人差がみられる。 説明的な文章で、筆者の意見やキーワード、主題などの読み取りに苦手意識をもつことがある。 自分の意見を他の人に伝えることが苦手である。 	
3年	区学力調査の結果の分析 全体では目標値を上回ったが、全国正答率は下回っている。技能別に見ると聞き取り、漢字の読み、文学的な文章の読み取りはすべての項目で評価が同程度もしくはそれ以上であった。日頃よりプレゼンテーションなど話す・聞く活動で表現したり、単元別小テスト・総まとめテストの実施、直しノートの提出などを行っている成果であると考え。一方で「読み取った内容を書く」「読んで理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深める」等が課題として挙げられた。まとまった文章を読み考えをまとめて書く時間を確保する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き生徒が言語活動に意欲をもって取り組むことができるよう、生徒の興味・関心をひくことができるようなデジタル教材、視覚的補助資料等を活用していく。 説明文の全体と部分などの構成や筆者の主張、段落と段落との関係等を捉えさせるよう説明文を図解化するワークシートの工夫を行っていく。その構成を文章を書くときも活かしていけるよう、単元と単元を結びつけて指導していく工夫を行う。 貸与されている一人一台タブレットをはじめとしたICT機器のもつ視覚的効果や補助資料としての効果を有効活用しながら、読むこと／書くことの育成に努めていく。
	授業における課題 <ul style="list-style-type: none"> 言語活動に意欲的な生徒が多数いる一方で、学習習慣・学力など個人差がみられる。 「書くこと」に対して苦手意識がある。 まとまった文章になると全体と内容の関係を捉えたり、文章の内容を見聞・経験と結びつけてまとめたりすることが苦手である。 	

現状分析を受けて、3年間を通して国語科で身に付けさせたい力とその方策

- 基礎的・基本的な知識および技能を習得させる。また読書習慣を定着させつつ、知識を活用しながら取り組む課題を設定していく。
- 話す、聞く、読む、書く、すべての言語・表現能力を伸ばす。そのために言語活動を多く取り入れ、協働の中で学びを深め広げる授業展開にする。

(2) 社会科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対しては関心をもって取り組む生徒が多くみられ、積極的に発言する生徒も多い。 ・知識を問う課題に対しては、それを追究する意欲が高く、定着率も高い。 ・問題文や課題の指示が十分に理解できず、読解や思考のポイントがずれることがある。 ・論理的な思考や判断を伴う学習に対応できる生徒は比較的多いが、その結果を表現力や論述する能力については十分に身に付いていない。 ・資料活用の技能についてはまだ十分に身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板などのICT機器を活用して学習意欲を高める工夫をする。 ・基礎的事項を資料と関連付けたり比較したりしながら捉えるような学習や、理由を考えながら課題を追究する思考活動などを授業の中に取り入れたり、対話的な活動を通じて課題を追究する学習を設定したりして、思考力を伸ばす。 ・自分の考えをまとめたり発表したりする学習課題を設定し、表現力や論述する能力を伸ばす。 ・定期考査において資料活用能力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的・歴史的事象を多面的・多角的に考察しようとする姿勢は育っているが、考察した結果を的確に表現する力の育成が課題である。 ・対話的な活動などをともなう協働的な学習が十分に実践できていない。 ・板書内容を書き取る、課題に取り組む、ノートや課題を提出するという、基本的な学習習慣を身に付けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを活用して、授業や単元を通じた学習内容を多面的・多角的に振り返り、まとめさせる。また、レポート、発表等の課題や活動を適宜取り入れる。 ・ステイタスグループを編成したり、場面設定を取り入れる活動を設定するとともに、ICT機器の活用法を取得していく。 ・個に応じた具体的な目標と課題を指示する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲は非常に高く、積極的に発言する生徒も多い。振り返りシートに記入する文量も増えている。 ・知識を問う課題に対しては、それを追究する意欲が高く、その定着率も高い。 ・問われている問題に正対できず、思考のポイントがずれたまま表現してしまうことがある。 ・問題文や課題の指示と、提示された文章や資料とが正確に結びつかない形で判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心をひくような題材をできる限り用意し、さらに学習意欲を高める工夫をする。 ・様々な社会的事象を個別の知識として覚えるのではなく、相互の関係や結びつきを理解させるように授業や教材を構成する。 ・発問に対して何が問われているのかを明確にして、表現する活動を取り入れる。 ・入試対応型の演習を授業内で実施して、読解力を高めさせる。

現状分析を受けて、3年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策

- ・基礎的・基本的な知識および技能を習得させる。基礎的な知識を習得させるための学習の振り返りとともに、知識を活用しながら取り組む課題を設定していく。
- ・社会的な見方・考え方を働かせた思考力・判断力・表現力を育成するために、対話的・主体的で深い学びにつながる指導法の工夫に取り組んでいく。
- ・持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を育成していく。そのために、よりよい社会の実現という視点からの課題を設定し、その課題を主体的に解決しようとする態度を育成する。

(3) 数学科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	区学力調査の結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習内容では、分数や小数の計算において、目標値を下回る問いがあり、基礎基本の徹底が課題である。 ・知識・技能の問題の正答率は72.6で、よくできている。 ・課題は百分率の計算や、比例・反比例、平均・場合の数の求め方が苦手である。 	具体的な授業改善案（手だて） <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業でスパイラルの指導を実施する。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図る。各章の章末テストで基本的な知識・技能の向上に努める。また、見直しの意識付けも行い、計算力の向上に努める。 ・各定期考査前に質問教室を実施して、家庭学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能の向上に努める。また、習熟度別授業の強みを生かして、細かく声かけをしていく。 ・各単元において、説明問題を取り入れたり、話し合い活動を行ったりして、言語活動の充実を図る。
	授業における課題 <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の復習や確認といった学習習慣が確立できていないため基礎学力が定着できない。小数や分数の計算に苦手意識がある。 ・小学校で培った力を伸ばし、図形や数量関係を深めるための計算力を養う必要がある。 	
2年	区学力調査の結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は高く、1年の学習内容はほぼ理解できている。 ・強みは活用分野（思考・判断・表現）である。 ・課題は数学的な技能がやや弱いことである。計算力不足により正答できていないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業でスパイラルの指導を実施する。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図る。また、各時間の学習内容を明確にし、関心・意欲を高める工夫をする。スモールステップの手だてを用意し、苦手意識のある生徒でも「わかる・できる」気持ちを伸ばし、成就感をもたせる。 ・各単元において、説明問題を取り入れたり、話し合い活動を行ったりして、言語活動の充実を図る。 ・各定期考査前に質問教室を実施して、家庭学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能の向上に努める。 ・各章ごとに章末テストを実施し、到達度を図る。適宜補習も行う。
	授業における課題 <ul style="list-style-type: none"> ・学力定着が二極化している。小学校や1年の基礎・基本が身に付いていないことがある。また、小学校の範囲である分数・小数の計算に苦手意識がある。 ・基本的な計算問題が課題である。簡単な計算でも計算ミスが多くみられる。 	
3年	区学力調査の結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・全体正答率は目標値を大きく上回っており、1年、2年の学習内容はほぼ理解できている。 ・強みは活用分野（思考・判断・表現）である。 ・課題はデータの分布の範囲である。新しい分野で、他の単元との関連も少ないため、演習量の不足が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業でスパイラルの指導を実施する。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図る。小テストや、各章の章末テストで基本的な知識・技能の向上に努める。また、見直しの意識付けも行い、計算力の向上に努める。 ・放課後の補習や再テスト等を行う。 ・生徒の発言で授業を進めることで、言語活動の充実に努める。 ・各定期考査前に質問教室を実施して、家庭学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能の向上に努める。
	授業における課題 <ul style="list-style-type: none"> ・分数・小数の計算に苦手意識がある。 ・基本的な計算問題でミスが目立つ。 ・長い文章を読み解くことが苦手である。 	

現状分析を受けて、3年間を通して数学科で身に付けさせたい力とその方策

自校の傾向としては、各学年ともほぼすべての項目において、目標値を上回っている。1～3学年とも、①学習意欲の向上、②基礎学力の定着と向上、③活用力の定着と向上 を引き続き身に付けさせていきたい。習熟度別授業でスパイラルの指導を実施する。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図る。

習熟度別少人数指導の充実に向けて

習熟度別少人数指導では、基礎クラスはスパイラルの指導を実施し個々に認め励ますことによって自信をもたせる。また、発展クラスは学びあい教えあう学習により、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わわせて、学習意欲を高めさせる。

(4) 理科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none">用語を覚えることが苦手な生徒や漢字で書くことが苦手な生徒が目立つが、平均的にはよく学習していると思われる。実験器具の取り扱いに不慣れであり、体験させる必要がある。生物に興味・関心のある生徒が多く、意欲的である。しかし計算を必要とする単元では、苦手意識がある。	<ul style="list-style-type: none">現在簡単な小テストを通して、書くことに慣れさせ結果を通して自信をもたせたいと考え、実施中である。実験を通して器具を直接取り扱い、体験させている。併せて理科における安全指導も実施する。パワーポイントを活用し、可能な限り具体的な写真や図を利用して説明する。また計算については、簡単な数字から練習してから応用へと授業を進める。
2年	<ul style="list-style-type: none">自然事象への興味・関心が高く意欲的に授業に参加している生徒が多い。学習したことを日常生活の現象に結びつける力が弱い。基本的な用語や語句を覚えられない生徒がいる。また、反復学習に対して後ろ向きである。自然現象に関する知識の定着はできているが、その知識を活用して思考することが苦手である。	<ul style="list-style-type: none">日常で見られる現象や身近なものを題材にし、既習内容と日常生活で見られる自然事象を結びつけて考えられるような授業を進める。反復学習したことがきちんと成果に現れる小テストを実施し、達成感をもたせられるようにする。自分の考えをしっかりと表現し、他者と共有する活動の場面を多く設定する。ICT機器を活用しながら協働的な学びを意識した授業を展開していく。
3年	<ul style="list-style-type: none">科学的な事象に興味や関心が高い生徒が多く、観察や実験にはとても意欲的に取り組む。一方で、実験器具の扱いには不慣れな部分が多く、進行が遅くなってしまう場合がある。理科の用語を覚えることが苦手である。粘り強く反復練習することが必要である。化学分野では、水溶液中の粒子をイメージすることが難しい。	<ul style="list-style-type: none">観察や実験に落ち着いて取り組めるように十分に時間を確保し、1人1人が実験器具に触れる機会を設けていく。また、パフォーマンステストも実施する。早押しのクイズ形式で用語を覚えることができる「カフト」を用いて、反復練習が退屈にならないように配慮していく。粒子モデルをプレゼンテーションソフトのアニメーションや映像資料を用いて、わかりやすく説明していく。

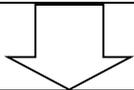
現状分析を受けて、3年間を通して理科で身に付けさせたい力とその方策

- ・自然の事物現象を見て、問題を発見する力を身に付ける。→さまざまな事物現象に触れる機会を設ける。
- ・発見した問題に対して課題を設定し、観察実験の計画を立てる。→考えを共有できる場面を多く設定する。
- ・自然の事物現象を調べ、探求のプロセスを振り返り改善する。→次回に生かせるような、結果に対する考察をしっかりと行う。

(5) 音楽科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を正確に読み取る力に大きく個人差がある。（リズム、音部記号、階名、強弱記号 など） 正しい音程やリズムで表現する力を伸ばすことが課題である。 鑑賞の分野に苦手意識がある。 表現することに対し、積極的な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な楽典の学習を反復し、より身近に使えるように、鑑賞・表現の分野に関わらず、ことあるごとに触れ、使用する機会を多く設定する。 毎回の授業で基本となる発声練習などを短時間で行い、姿勢や口の開け方、呼吸法などと交えて、正しい演奏方法を身に付けさせていく。 鑑賞教材の導入教材などをより生徒の年代や生活にあった教材から選定し、興味関心を高める工夫を行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を正確に読み取る力が不足している。（リズム、音部記号、階名、強弱記号 など） 声変わりの影響を受ける男子生徒が多く、歌に対して消極的である。 正しい音程やリズムで表現することが苦手である。 鑑賞の分野に消極的である。 表現することに対し、消極的（恥ずかしがる）である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な楽典の学習を反復し、身近に使えるように、鑑賞・表現の分野に関わらず、使用する機会を多く設定する。 基本となる発声練習などを短時間で行い、姿勢や口の開け方、呼吸法と交えて、正しい演奏方法を身につけさせていく。男声は無理な発声にならないよう心がける。 鑑賞教材の導入教材などをより生徒の年代や生活にあった教材から選定し、興味関心を高める工夫を行う。 複数での表現活動を設け、お互いを認め合い、支え合う土壌をつくることで安心感がある表現空間を作る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を正確に読み取る力が不足している。（リズム、音部記号、階名、強弱記号 など） 正しい音程やリズムで表現することが苦手である。 鑑賞の分野に苦手意識がある。 表現することに対し、積極的な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽典の学習を反復するだけでなく、それらを実際に活用し、検証していくことでより学びを深めていく。 発声練習や呼吸法を基礎練習で身に付けさせるだけでなく、実際に取り組んでいる楽曲を活用して、より実践的な発声法を意識して、正しい演奏方法を身に付けさせていく。 鑑賞教材は音楽面だけでなく、作曲者の意図やその年代の時代背景などに深く触れ、興味関心を高める工夫を行う。



現状分析を受けて、3年間を通して音楽科で身に付けさせたい力とその方策

- 1年 音楽を楽しみ、愛好する心情を育てる。
 - 様々な音楽に触れる機会を多く設け、表現の入り口に立たせる。
- 2年 表現することのおもしろさを知り、積極的に表現活動を行う。
 - 1人称の表現ではなく、様々な表現方法の有無や他者の考えを共有しつつ、表現の幅を広げる。
- 3年 鑑賞と表現のつながりに気付き、創造的な表現を工夫できるようにする。
 - 鑑賞活動をしていく中で、その楽曲にふさわしい表現を学習し、自らの表現に生かす。（鑑賞と表現の一体化）

(6) 美術科

【中学校】

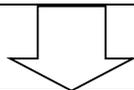
現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような題材でも自分なりの目標をもち、集中して取り組む生徒が多い。 ・作品の制作進度の差が大きく、遅い生徒の指導と配慮が必要である。 ・題材ごとの、学習したい技法やめあてを意識して活動できていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を完成させる事だけがめあてにならないよう、机間指導で個々に対して作品についての具体的な工夫例を示す。スケジュールを毎時、授業始めに示し、計画性をもって制作するよう声かけをする。 ・技法は必要に応じて、繰り返し実演を行う。アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないことに対して投げやりになり、学習意欲を保つことができていないことがある。 ・1時間の授業に全員が集中して取り組める学習展開の工夫が必要である。 ・自分で考えたり、自分なりの意図やねらいをもって制作したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入や説明、制作時間をコンパクトにし、本時のめあてを明確に示す。また、授業を進める中で、質問を随時受け付け、疑問点をその場で解決できるようにする。 ・対話形式の鑑賞を通して、分からないことから解を見いだす練習を行う。 ・アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境を作り、制作の姿勢を身に付けさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力が続かず、作品が完成できないことがある。 ・作業は熱心に行うが、創意工夫や考えることに苦手意識がある。 ・ワークや鑑賞活動の時に、自分の意見を発表したり自分の考えを伝えたりすることに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチやワークなどを見返したり、今後の制作を見通したりして、気づきを積極的に取り入れる時間をつくる。 ・ワークシートなどを用いて自分の考えを個々でまとめさせる時間を設ける。また、段階的に分かりやすく、答えやすい質問を投げかけ発言のしやすい雰囲気づくりに努める。様々な活動を通して、授業中に発言する回数を増やし慣れさせる。

現状分析を受けて、3年間を通して美術科で身に付けさせたい力とその方策
<p><全学年></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 楽しく美術の活動に取り組み、心豊かに創造していく意欲と態度の向上を図る。 (2) 多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫して美しく表現する能力を育成する。 (3) 自然や美術作品などについて、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力の充実を図る。

(7) 保健体育科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> 概ね意欲的に運動やスポーツに取り組むことができる。協働的な取組という点で課題がみられる。 学習カード等の記入も意欲的に取り組むことができる。具体的な課題を見付けたり、表現したりする力を身に付けさせる必要がある。 投げる力、敏しょう性、持久力に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の中で計画的に対話的で探究的な学習の場面を設定する。 ICTを活用し、視覚的に課題を把握できるようにする。紙面での記述とICTを活用した記述を併用し個に応じた取組を設定する。 主運動につながるゲーム的要素を取り入れた補助運動を行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 概ね意欲的に運動やスポーツに取り組むことができる。一方で、男女共習に戸惑いを感じる生徒がおり、活動がやや消極的になってしまう傾向がみられる。 自身または他者の課題を理解し、改善していくために必要な情報を相手に伝える思考力・判断力・表現力等を身に付けさせる必要がある。 投げる力、持久力に加え、男子は柔軟性、女子は瞬発力に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 男女で一緒に活動する場を設け、互いの良さを認め合い、積極的に活動できるような環境づくりをする。 ICT機器を活用し、視覚的に課題を見つけ、改善できるようにする。また、その課題を生徒が教え合い、学び合えるよう言語活動の時間を設ける。 主運動につながるゲーム的要素を取り入れた補助運動を行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 概ね意欲的に運動やスポーツに取り組むことができる。運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有するという点で男女共習に戸惑いを感じていることがある。 基本的な知識や技能を活用して、課題を見付けたり、他者に伝えたりする思考力・判断力・表現力等の育成が課題である。 男子は投げる力と持久力、女子は筋力と持久力に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「体づくり運動」「現代的なリズムのダンス」「球技（ネット型）」などの比較的取り組みやすい単元を前半に配列する。 ICTを活用し、視覚的に課題を見付けられるようにする。オンラインで学習カードを記入する単元を設定する。 主運動につながるゲーム的要素を取り入れた補助運動を行う。



現状分析を受けて、3年間を通して保健体育科で身に付けさせたい力とその方策

今年度の新体力テストの結果から、本校は全体的に東京都や全国の平均と比較し体力は低い傾向にある。一方で、運動やスポーツへは概ね意欲的に取り組むことができる。したがって、こうした意欲が体力や技能の向上につながるようにしていくことが課題となる。そのためには、意欲や態度と知識・技能・体力をつなげる「思考力・判断力・表現力等」の育成が必要となると考える。学習カードの工夫やICTの効果的な活用と適切な評価を通して、「思考力・判断力・表現力等」を育みたい。

(8) 技術・家庭科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none">非常に熱心に取り組んでいる生徒が多く、学級全体の学習に向かう雰囲気ができている。わからないところを質問し、教師の設定する学習目標を達成しようと努力する様子がみられる。既存の知識や技能の定着度と経験に差がある。生徒によって学習活動の取り組みに差がある。	<ul style="list-style-type: none">動画やカラーの資料をタブレットで利用できるようなし、授業の復習および学習の基盤になる基礎的な知識の確認など、幅広く学習をサポートする。生徒の実態に即した授業の計画ができるよう、小テストや事前課題などの結果を精査し、授業計画に反映させる。生徒が興味・関心をもてるように、資料やICT機器を活用して教材や授業の工夫をする。
2年	<ul style="list-style-type: none">活発に授業に参加する生徒が多い。学級や個人によって、授業に取り組む態度に差がある。わからないことに対して投げやりになるときがあり、学習意欲を保つことが課題である。小学校での学習内容（特に算数）が身に付いていないために、計算問題の解き方を理解できないことがある。製作での技能差が大きい。	<ul style="list-style-type: none">授業では教科の学習内容に集中して取り組むことができるよう、学習目標をシンプルなものにする。学習目標を見失わないように、はっきりと掲示し、授業の終わりにやテスト前に生徒自身が自分で振り返ることができるようにする。製作における基礎、基本を繰り返し指導する。
3年	<ul style="list-style-type: none">時間数が少ない中で、授業の進行に協力的な生徒が多くいる。製作に意欲的に取り組んでいる。コンピューターの操作技能について個人差がある。課題の提出ができない生徒への支援が必要である。	<ul style="list-style-type: none">個別に指導を受けなくても、欠席した授業の内容には必ず取り組むように指導する。課題の提出期限を確実に守れるように、声かけをする。

現状分析を受けて、3年間を通して技術・家庭科で身に付けさせたい力とその方策

- (1) 課題解決に重点を置いた学習指導を展開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。
- (2) 実践的・体験的な学習活動と、適切な評価をおこなうことで学習意欲を高めるようにする。
- (3) 生活と関連させた題材により、生活の自立に必要な基礎的な知識と技能を身に付けるように指導する。

(9) 外国語科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善策（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は積極的に活動に取り組む様子がみられる。 一方で、基本的な語彙や表現・文法についてもまだ理解が不十分な点が見受けられる。 幅広い習熟度の生徒がおり、個に応じた指導がしきれていない面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心をひくことができるようにデジタル資料やスライド等をより一層活用した授業を行う。 小テストや日々の活動の理解度を元にして、十分に理解し切れていない生徒への個別指導を行うとともに、その間に意欲的な生徒が取り組める発展的な教材を用意する。

現状分析		授業改善プラン
区学力調査の結果の分析		具体的な授業改善案（手だて）
2年	<p>「聞くこと」「読むこと」に関しては目標値および全国平均値を上回っている。「書くこと」は目標値を上回ったが、全国平均値に及ばなかった。正答率の低かった問題は、【場面に応じて書く英作文】であり、対話の流れに合った英文を正確に書くことが苦手であることが分かった。（数、場所をたずねる）</p>	
	授業における課題	
3年	<p>語順を間違えずに文を作ることができるという結果に反して、英文を自力で書くことが苦手であることから、基本的な文例に沿って状況に合う英文を書く練習を授業に組み入れる必要がある。理解力の高い生徒には、より長い文を書き進められる指導が必要である。</p> <p>疑問詞については、日常の授業の中で、直接生徒とのQ&Aなどを通して定着させる必要がある。</p>	
	区学力調査の結果の分析	
	<p>区平均と比較をすると、書くことに対する正答率が高い。日頃より、自由に表現をする機会を多く与えていることによる成果であると考えられる。一方、読むことに対する正答率が低い。現在行っている帯活動に加えて、まとまった文章を読む時間や読み物とじっくり向き合う時間を確保する必要がある。</p>	
授業における課題		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き生徒が言語活動に意欲をもって取り組むことができるよう、生徒の興味・関心をひくことができるようなデジタル教材、視覚的補助資料等をうまく活用していく。 技能統合を意識した授業展開を通して、各技能／領域における英語力育成を目指していく。 貸与されている一人一台タブレットをはじめとしたICT機器の持つ視覚的効果や補助資料としての効果を有効活用しながら、読むこと／話すことの育成に努めていく。
<ul style="list-style-type: none"> 言語活動に意欲的な生徒が多数いる。 四技能五領域に関する独自調査でも、「書くこと」に対して得意と感じている生徒が多くを占める。 「話すこと」、「読むこと」に対して苦手意識がある。 		

現状分析を受けて、3年間を通して外国語科で身に付けさせたい力とその方策
<p>2, 3年の「聞くこと」「話すこと」に関しては概ね目標値を達成できており、日頃の生徒の意欲も高い。並べ替え等の問題では正答を導き出すことができるが、読解や表現（状況作文）においては、現在取り入れている読解のための副読本（「読みトレ」）を活用しながら読解力を身に付けられるよう指導する。1年生の段階から疑問詞の使い方、応答の仕方などをしっかり定着させ、場面に応じた英文が作れるようにするため、日々の授業で英問英答のスピーキング活動をさらに継続していく。また、各学年とも、英作文の力を伸ばしながら、意欲的に自己表現できるような発表活動を今後も定期的に取り入れる。</p>
少人数指導の充実（実施校）に向けて
<p>各学年の主となる担当者が授業冊子や授業スライド等の共通教材を作成し、授業前に担当者同士で打合せをすることで、授業内容等の統一を図っている。また、少人数指導の強みを生かして、生徒一人一人が発話する機会をより多く設けていく。</p>
ALTの活用の工夫
<p>教科書のスピーキング教材に工夫を加え、生徒の実生活を踏まえたシチュエーションの内容で練習ができるよう準備をしてもらった上で、生徒のスピーキング能力向上のために Speaking Test の評価をしてもらう。また、英作文の添削を通じてより自然で実用的な表現を学べるよう助言をもらう。</p>

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

